2007 年 11 月 1 日

中国が高騰価格で LNG を購入する理由

シェル（Royal Dutch Shell Plc. RDSA）の情報によると、シェルと中国石油（PetroChina）は「年間 100 万トンの LNG を 25 年にわたってシェルが中国石油へ供給する」ことに関して合意を見た。LNG の価格は 10 ドル/MMBTU、ガス源はオーストラリアの Gorgon である。なお、WOPEY（Woodside Petroleum Ltd.）と中国石油との間でも、2013～2015 年からの 15 年間に 300 万トン/年の LNG を供給することについて合意が成立している。

今回の合意内容では 2 つの点が注目される。第 1 は LNG の価格である。情報によると、シェルとの合意では FOB 価格は 10 ドル/MMBTU である。この価格は 2006 年における日本の LNG 輸入平均価格 7.14 ドルをかなり上回り、中国沿海部における受入れ価格の最高水準である 5～6 ドル/MMBTU をさらに大きく上回る。

第 2 は中国石油にガス田への参入が認められなかったことである。現在まで中国側が購入した LNG に関しては、中国側はすべて上流権益への参入を要求し受け入れられている。これは、中国の国策に則ったもので、中国語で「市場換資源」（自国の市場と外国の資源を交換する）と言われており、従来は、この条件が満されない場合には、プロジェクトの審査段階で国家発展改革委員会（NDRC）から拒否されていた。

それでは、なぜ NDRC は今回、中国石油のこのような行動を支持しているか、また、なぜ中国石油はこのような高い価格で購入するか――筆者は以下の要素があると考える。

1. 安倍政権は日米豪印連携の「価値観外交」を打ち出し、それを中国が警戒した。中国はオーストラリアを牽制するため、急いで合意したであろう。それはオーストラリアとの緊密な政治・経済関係を構築するためである。
2. 政府からすでに承認された LNG プロジェクト（江蘇省如東）を実施に移さないと、このプロジェクトが他の石油会社へ移り、沿海地域の市場を奪われる可能性がある。また、中国石油は低価格の国産ガスと LNG を一緒に販売することも可能であろう。
3. 中国石油は現在、中国の沿海部、特に上海デルタ地域に単線でガスを供給しているが、天然ガスの安定供給は中国石油にとって重要な政治的任務でもあり、単線、遠距離のガス供給はリスクが大きいことから、政府から対策強化の指示を受けたであろう。また、天然ガスは冬と夏の需要差があるので、パイプラインだけではピーク調整の能力が小さい。このような状況を改善するためには、LNG の導入が必要であろう。
4. ガス価格を引き上げるためではないか。中国国内の天然ガス価格が低すぎるため、天然ガスの輸入が制限されている。天然ガス価格を引き上げるため、政府は裏で中国石油を支持している。あるいは、中国石油は PNG、LNG の大規模導入のために、政府

へ圧力をかけているかもしれない。

5. 現在、シェルは中国のオルドス盆地でガスを生産し、中国石油のパイプラインを経由し、中国国内へ販売している。シェルがこの部分のガスを低価格で中国石油へ提供すれば、LNG の高価格を相殺することになるとも言える。
6. 以上を総じて言えば、中国沿海部は中国の最大の天然ガス需要地であり、将来の需要ポテンシャルも高いと言える。中国石油は自社ガス供給能力が不足しているので、天然ガス市場を維持･拡大するため、早い段階で LNG を導入し、市場へ提供することが、この合意の目的であろう。

中国が計画中の LNG プロジェクトは 10 以上あるが、最大の問題はガスの輸入価格である。現在、中国の天然ガス価格はすでに石炭よりはるかに高くなっており、また、今回の PetroChina の価格は政治的背景もあって受け入れたもの並びに PetroChina の豊富な国産天然ガスと同時に販売するので LNG の数量がこのくらいの程度であれば、ガス販売価格への影響は小さく、LNG 価格は直接最終消費者市場に受け入れられる価格ではなく、したがって今後の導入量が大きく伸びることも考えにくい。然し、今回の LNG の輸入量により日本への影響が大きくはないと言え、供給先が今後、この価格がアジアの市場で受け入れられることが証明されたことを利用すれば、LNG の最大輸入国である日本に対する影響が大きいであろう。

（エイジアム研究所 首席研究員　張 継偉）